

カナダ サスカチュワン州 コーナーストーンクリスチャンスクール 宗さん**留学期間 H29.9.05～H30.6.27****1 留学の成果**

カナダの大自然に囲まれて過ごした 10 ヶ月間は、英語を、カナダを、そして自分自身を学ぶ時間でした。疑問ができれば、周囲とコミュニケーションをとりつつ解決に努め、物事への理解を深め、常識にとらわれない柔軟な見方ができるようになったと考えます。

サスカチュワン州には、第一言語を英語としない人がたくさんいました。多国籍国家として知られるカナダなので想像はしていましたが、多文化共生がなぜ可能なのかについてはよく知りませんでした。そのような私が共生について最も学ぶことができた場所は、難民や移民の人が通う教育施設です。私はボランティア員として初めてそこへ行ったとき、年齢や言語の壁がない、人と人の距離の近さに驚きました。先生と生徒が接する場合でも、互いを一人の人として見て、その人の個性を尊重していました。多くの人が自分の個性に自信を持ち、かつ相手を思いやり譲り合う精神を兼ね備えているから、違いも含めて愛せるのだろうと考えます。私自身も、自分であることに躊躇する必要がなく、日本とは違う心地よさをカナダの空間に感じました。我を持つということは、我を通すことではなく、自分という人間を知り、それを表現することです。それをできる自由さと寛大な心、この 2 つが多文化共生社会を形成するのだと思います。

私の留学前の目標は、コミュニケーション能力を向上させることでした。「その過程で語学力を身につければ」という軽い気持ちで日本を発ちました。しかし現実には、簡単な言葉でも口に出てこない、頭で考えた文をうまく発音できない、何度も聞き返されるという日々が続きました。自然と、自分の意見を主張しなくなり、NO と言われない多数派を探すようになりました。コミュニケーションに対して極めて消極になったことを、英語力のせいにしていたのです。今考えると思考全体がネガティブな方向に傾いていたと思います。しかし、時の流れが私に変化をもたらしてくれました。たった三カ月後には会話を楽しみ始めたのです。自己表現する、すなわち自分の存在を示すために、行動を起こすようになりました。そのきっかけを与えたのはホストマザーです。彼女は毎朝、今日の調子はどう？と聞いてきました。カナダ人の感覚からすると、「おはよう」に近い挨拶です。私は毎朝、元気だよと反射的に答えていました。ある日ふと、不自然な会話だと気づきました。同時に、これまで英語で生活してきたのだから、様々な方法で返事をしてみようと思いつきました。今日は寒いねなど、目に見えることや感じていることを加えて、会話を長くさせたのです。朝から人とコミュニケーションをとれると、どことなく満足感や幸福感が得られます。ポジティブな感情は、積極的な自分を取り戻す大きな力となりました。

自分らしさを取り戻し、日々を明るく過ごせるようになると、正確さや語彙力に欠けた自分の英語力を何とかしたいという意欲がわきはじめました。わからないことがあったら周囲にどんどん聞く、言いたいことがあったら正直に言う。当たり前のことを当然のこととしてするように努めました。そこで何度もした失敗は、わからないまま、自分を偽り続けるよりずっと価値のあることだと思えるようになりました。

次第に、自分の意見を言い、その根拠を英語で話せるようになり、たとえ相手に NO と言われても相手の根拠を理解するリスニング力を身につけました。反対意見や少数意見にも耳を傾けて、視点を柔軟に変えながら、人と議論しながら自分の考えを深められるようになりました。今ではコミュニケーション能力と英語力の両方に自信を持っています。

カナダには、人種や文化を超えて、人と人の間に壁を感じさせない自由があります。そして、同じ地に
いるすべての人を受け入れ、愛する、心温かい寛大な人々がいます。そこで10ヵ月間を過ごし、自分
の人間力と語学力を大きく向上させる機会を得たことは、これからも生きていくうえで、いろいろな形で
自分の拠り所になると考えます。これは決して誰しもが経験できるものではなく、両親や友達、学校や
福井県の援助のおかげだと考えています。留学で出会った人、支援してくださった方々、全ての人と環
境に深く感謝をしています。この貴重な経験と、そこから見出した自分らしさを活かして、これからも力
強く歩み続けていきたいと考えています。

2 履修状況、課外活動等

(1) 履修科目

通年

- ・キリスト教経典
- ・英語 高校2年生用
- ・英語 高校3年生用
- ・聖歌隊

前期

- ・微分積分学 高校3年生用
- ・企業家精神
- ・カナダ史 高校3年生用

後期

- ・心理学 高校2年生用
- ・体育
- ・調理

(2) 課外活動および受賞歴等

課外活動

- ・ミュージカル
- ・演劇部
- ・カーリング
- ・ボーカルジャズ

受賞歴（全て演劇部の照明スタッフとして）

- ・最優秀技術スタッフ賞
- ・最優秀技術賞
- ・最優秀ステージ演出賞

3 今後の活動予定

卒業後は、四年制大学への進学を志望しています。そこで持続可能な社会の基盤のつくりかたを学
び、将来はJICAに勤め、安定した都市をつくるための企画者になりたいです。社会や文化的背景から
世界中の課題を理解し、効果的で効率的な解決策を導くための知識を得ることが必要になると考え
ます。留学で得た目標に向かって努力する根気強さと、工夫して適当な手段を見つけ出す柔軟な思
考力を活かし、勉学に励みたいと思います。また、持ち前の積極性で海外から来られた方とコミュニ
ティを見つけたり、ついたりして、語学力の向上にも努めます。コミュニケーションを通して多くの知識を蓄
え、常に自分の人生をより豊かなものにするために、何事も意欲的に取り組んでいきます。

4 記録写真



ホストファミリーとの家族写真です。ホストシスターの卒業パーティーのために、親戚も集まりました。非常に穏やかで、また聡明な家族で、日常の会話から、カナダの文化やキリスト経典など幅広い分野について学ぶことができました。何度も、精神面と語学面と全面的に支えてもらい、大変感謝しています。

教会で手巻き寿司を振る舞いました。ホストファミリーの職業は牧師であるため、毎週家族でその教会へ行きました。そこにいたすべての方が、キリスト教について限りなく無知に近かった私をも、優しく受け入れ、また経典について教えてくれたため、感謝の気持ちを伝えるためにこの場を開きました。



カナダの冬は長く、体育の時間でクインジーを作りました。日本のかまくらとは違った作り方で、現地の友達と協力しながら作成したことはとても良い思い出です。



友達と湖の近くの大きな公園に遊びに行った時の写真です。彼女たちは、私が日本人であることで差別することなく、一人の友達として仲良くしてくれました。



帰国前に、お世話になったホストファミリーや先生、また大切な友達に写真たてやポップアップカードなどを作り渡しました。

